

本堂が世界遺産高野山に!?

榎ノ木

第廿七号

令和2年12月1日発行
青壮年部女性部広報
題字:大内翠峰



ことうしやうじやう
【古堂清浄】

この秋当山本堂に大変素晴らしい日本画が寄贈されました。

作者・寄贈者は住職の叔父に当たる長野市、故土屋満樹画伯（日府展参事）（令和2年8月没）です。

画題は「古堂清浄」。

世界遺産高野山真言宗金剛三昧院（こんごうさんまいいん）の森閑とした経蔵を背景として、咲き誇る石楠花（しゃくなげ）の幽玄たる景色を描いた大作です。

実はこの金剛三昧院は、禪興寺の前身である「長福寺」（開創千二百六十五年・鎌倉時代末期）を開いた法身性西禅師（ほっしんしょうさいぜんじ）（禪興寺の本寺・松島瑞巖寺の禅宗初代開山）が出家して、中国に渡り、仏鑑禅師（ぶっかんぜんじ）無準師範禅師（ぶっせんしはんぜんじ）の法を継ぐ以前に、修行された由縁深き場所なのです。

〔約七百年前〕

長野市は、古来善光寺の門前町で大変信心深き土地柄です。

昔から「高野講」を結び、在家信者が高野山に詣で、修行する伝統が現在も受け継がれています。

氏は二十年近くその講長を務め、

土屋満樹画伯寄贈

熱心に修行を積む傍ら、石楠花で名高い金剛三昧院をいつか描きたいとの念願が叶った作品です。

たまたま甥っ子に当たる当山住職の晋山式に参列した際、何気なくつけた画題と本堂正面に掛けられた、元妙心寺派管長臥雲菴（がうんあん）老大師揮毫（きごう）の山号額縁に「清浄」の二文字が奇しくも一致した事に、身を震わす程の仏縁を感じ取ったそうです。

昨年10月の台風19号による千曲川堤防決壊により、長野市穂保の自宅一階と河川敷のリンゴ畑が水没し、復興を目指す最中の急逝でした。

本堂にお越しの際はぜひご覧下さい。

故人のよき供養になろうかと存じます。合掌



元妙心寺派管長
臥雲菴老大師
揮毫の山号額



う
ら
ぼ
ん
せ
が
き
え
孟蘭盆施餓鬼会厳修

様々な困難を乗り越えて、荘厳な雰囲気の中行事は粛々と進められました。



お経を唱えて堂内を巡る行道（ぎょうどう）

コロナ禍中での行事実施について
本年は、孟蘭盆施餓鬼会実施につ
いては、総代会で大いに紛糾致しま
した。
万が一にもクラスターが発生した
ら！との懸念からです。
しかし、盆棚経で回れない大和町
地区外檀家や樹木葬会員、そして町
内新亡檀家に対して、ご先祖様の供
養をする寺の責任を果たす必要があ
るとの結論となりました。
そこで知恵を絞り、最大限の感染
症対策を施して厳修致しました。

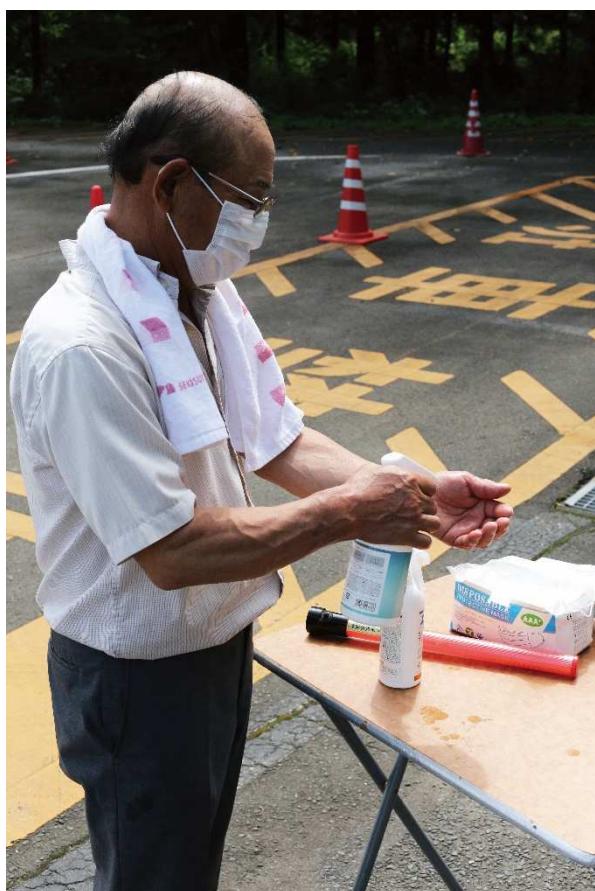


御詠歌が朗々と本堂内に響き渡ります。

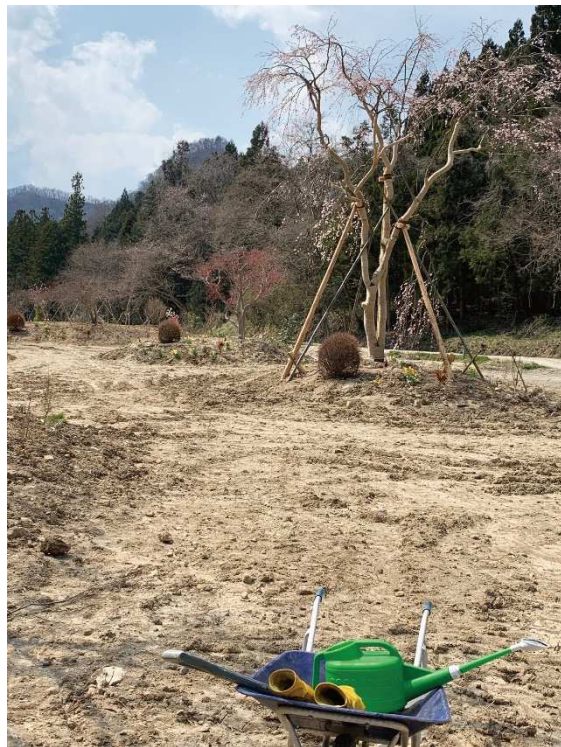
例年は参列者で満杯の本堂内は、
飛沫感染を防ぐため僧侶と責任役員
のみとし、参列者は屋外テントに社
会的距離を保って着席、車から降りる
前に非接触式検温器による全員の体
温チェック、山門をくぐる前に全員手
指消毒、脱水症予防の飲み物もペッ
トボトルに、等々考えられる限りの対
策を徹底しました。
お陰様で一人の感染もなく、クラ
スターも発生せず無事円成致しまし
た。
皆様のご協力に深謝申し上げます。



コロナ禍に負けない〔新生活様式〕！
マスク着用、三密を避け、手指の消毒を徹底！！



百年の森創り ―荒地に花を咲かせましょう―



〔アフター〕 荒地に緑が生まれました。 〔ビフォー〕 水遣りは手前のジョウロで一人馬力

禪興寺 住職 梅澤徹玄

「あっ!? やってしまった!」一瞬息を呑み、目を見張り、一点を見詰めてしまいました。

一週間前に移植したばかりの樹高2メートル程のトネリコの木が、青々としたツヤのある葉をすべて落としていたからです。

今まで何の不自由もなく、春の芽吹きに励んでいたものを、「自分の思い付きで死なせてしまった」後悔に胸がつかえる思いでした。

今年は年初めから境内地奥の七ツ森山麓で、森創りに励んでいます。

休耕田を造成した更地は例年になく暖冬で積雪はありません。

山に囲まれた広大な敷地に、大きな樹木の移植は業者に任せ、後はひとすらい地面を這うように小さな樹木や草花を植え続けました。

3月から5月にかけては、ほとんど雨が降らず、カンカン照りが続き、まだ根の付かない樹木に水をやらねば枯れてしまいます。

大きなバケツやジョウロで、敷地を流れる山の湧き水の溪流から水を汲み、運び、築山を上り、根元に水をかける。

来る日も来る日も朝から日の暮れるまで、この単純作業の繰り返しで毎日が過ぎて行きました。

お陰様で体重も8kgほど減り、真っ黒に日焼けして、周りからは「サーファーか?」とからかわれる始末です。

思い起こせば、寺を離れず、春の彼岸を挟んで、自坊でこんなにじつくりと時間を過ごせたのは実に何十年ぶりであつたでしょう。

さまざまな出張や課題に追われ、全国を飛び回り、綱渡りのようなスケジュールに冷や汗をかいて。その癖、忙しさを誇るかのようなところのいびつさに、漠然とした不安をこころの奥底に持ち続けてきた日々。

やらねばならぬ事にキリキリと追いまくられ、分単位の慌たしさに、こころの澁（おり）がいつのまにか溜まっていたのでしょうか?

SNS流行りで、仕事もプライベートも（他人より）充実し、それを

清浄山禪興寺 花園会青壮年部・女性部会報

発信して、（人様の）称賛を浴び続けなければと、世間は幸せ自慢に明け暮れているかのようです。

自分も負けぬようにと、知らず知らず無理を重ねていたのでしょうか？

自然の只中でただひとり、炎天下の大地に向かって鍬を振るい、体力を振り絞って、樹木に水を灌ぐ。

そんな単純な生活のリズムのお蔭か、ここにこびり付いた薄皮が、一枚一枚自然と剥がれてゆくような心地よさを感じる毎日でした。

ある酷暑の午後。疲れ果て、ふと溪流に、熱した手と頭と浸し、顔を洗い、覆いかぶさるようにそそり立つ岸壁と樹木の木陰に身を隠し、川辺に座って、炎天下の木々を振り返って眺めていたその時です。

水不足で枯れぬよう、必死に歯を食いしばって水遣りに追われていた私の思いとは裏腹に、木々はそれぞれに生命力に溢れ、天地一杯枝葉を広げ、命の輝きを放っているではないか。

その真只中に、私も同じひとつの命として生かされている。

心の底から喜びと感謝が溢れてきました。

木々に「ありがとう」と言いたい気分だったのです。

そんなある日、「あの枯れたトネリコを引っ抜いてしまわねば」と思いつつ、愛犬「おいどん」の散歩で仕事終わりの見回りをしていた時です。

又、思わず息を呑み、目を見張ってしまいました。

なんとあのトネリコが、いつの間にか青々としたつややかな葉を見事に茂らせているではありませんか。

移植で根を切られ、仮死状態になった木は、自らの意志で古い葉を落とし、新しい命を育む新緑を芽生えさせていたのです。

試練を乗り越えた逞しいのちの営みは、与えられる前から生きる力を備えていたのです。

木とわたしの命は、形は違っているけれど、おなじ今を生きている。そう素直に感じさせてもらえた瞬間でした。

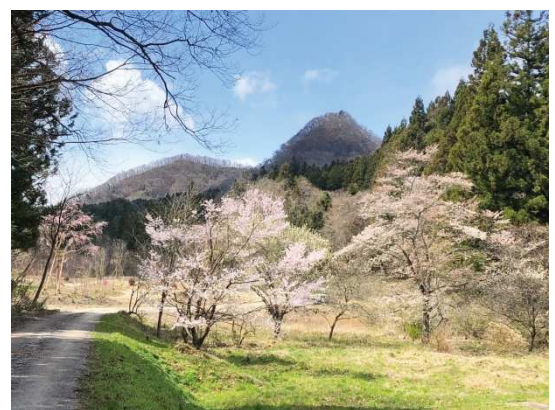
百年後に私はこの世に生きていないけれど、百年後を生きる森に、今日の息吹が生きついていることを信じ、この瞬間に、ここを込めて、人々の希望と癒しとなる森を育ててゆこうと思っています。合掌



高田河畔の江戸時代の供養碑が甦りました



福島県三春の滝桜（実生）が吉田で満開！



七ツ森雄峰遂ヶ倉（とがくら）山麓は春爛漫

霊巖寺・八女茶紀行

青壮年女性部副会長 佐藤 彰

10月2日、福岡県八女市黒木町笠原の臨済宗妙心寺派寺院の大端山霊巖寺を参拝してきました。

レンタカーで、博多から九州自動車道を40km南下し、一般道を20km走行すると約一時間半で到着。

応永30年（一四三三年）、霊巖寺開山栄林周瑞禅師が中国の明から茶の種子を持ち帰りました。

栽培製茶の技法を庄屋の松尾太郎五郎久家が学び、今日の甘くて高級美味な八女茶の基を築いたとされています。

境内から見渡す丘陵地帯に広が

る茶畑の大パノラマは圧巻です。

大感動でした。

霊巖寺の本尊は、千手観音です。

栄林周瑞禅師が諸国行脚中、この地が中国蘇州霊巖寺の景観に似ていることから、寺を開いたそうです。

東日本大震災後、八女茶栽培農業法人「茶ノ実庵」様から、禪興寺を通じて津波被災地の方々へ、八女茶を数年に亘り無償で支援物資として届けて頂きました。

震災翌年、福岡八女地方は集中豪雨による災害を受けたにも拘らず、引き続きご支援賜りました。その縁で、その後、禪興寺にも皆様数回



霊巖寺本堂と栄林周瑞禅師像

ご来山頂き、住職も本山巡教他で何度も彼地へ伺いました。

今回天候にも恵まれ、千六百kmも遠く離れた八女の皆さんに改めて感謝の旅でした。合掌



霊巖寺の名所「珍宝岩」山門までの急勾配の石段

今後の行事予定

◎12月8日（火）

成道会 寺内のみで実施

◎1月9日（土）

大般若祈祷 役員のみで実施

◎2月

涅槃会 未定

◎3月28日（日）午後4時

境内墓地清掃

編集後記

新型コロナウイルス感染症の猛威が止まらない。

感染防止のため、多くの行事が自粛や中止となり、広報活動にも大きな支障があり大変苦勞致しました。

「共生」の社会生活の中で、私たちは、どうあればよいのかを問い続け、人の心がつながっていける広報誌を目指して活動中です。

今できることに全力を尽くし、日々精進していききたいと思っています。



柴犬おいどんカメラ目線？

広報部

部長 小川弘吉

副部長 相澤敏晴

部員 佐藤 彰 早坂妙子

発行

禪興寺花園会青壮年部・女性部 広報部
〒九八一・三六二五
宮城県黒川郡大和町吉田字長福寺一
電話番号 〇二二・三四五・二〇六三